

2018年3月期 決算説明会質疑応答内容

①	<p><b>Q:</b> 今後の配当方針について教えてほしい。</p> <p><b>A:</b> 現行水準を下回らない前提で、資産状況や各種指標も参考にしながら考えたい。配当性向だけではなく配当額、配当利回り等も考慮しながら総合的に判断する。</p>
②	<p><b>Q:</b> 国内の砂糖消費量の今後の見通しを説明してほしい。</p> <p><b>A:</b> 業務用の販売は堅調であるが、家庭用は漸減傾向が続く。砂糖、異性化糖、加糖調製品からなる国内甘味料の需要全体は近年大きな変動はないが、砂糖消費だけが大きく減る理由の1つは、異性化糖や加糖調製品との価格差である。先般のTPP（環太平洋経済連携協定）合意が実行に移されると、加糖調製品にも調整金負担が生じ国内流入への歯止めとなると想像する。砂糖業界にとっては1つの追い風であり、一部のユーザー様の砂糖回帰等もあり、現状の190万t程度で推移すると予想する。</p>
③	<p><b>Q:</b> 消費減少への対策として同業他社と統合した場合、コスト競争力や統合メリットについて教えてほしい。</p> <p><b>A:</b> 当社は3工場を維持しており、生産量の増加に繋がれば固定費は削減され、コスト競争力は上がる。砂糖業界の各工場はいずれ大型設備更新が必要となり、当社では新しい技術を導入しながら対処を進めている。また、生産コストだけではなく、生産から販売、物流に至る一気通貫の戦略が実行できる当社にとっては、それぞれの分野で効率化を図ることが可能。</p>
④	<p><b>Q:</b> 2019年3期のロイヤリティー収益の見込みを教えてほしい。</p> <p><b>A:</b> 契約の関係から具体的な金額は非公表であるが、2018年3月期から大きく下回ることはないと予想している。</p>
⑤	<p><b>Q:</b> 世界的な粗糖輸出国であるタイ国がTPPに参加することは、①砂糖業界と②三井製糖にどのような影響を及ぼすか教えてほしい。</p> <p><b>A:</b> タイ国はまだTPP参加を表明した段階であり、これから様々な交渉がなされるものと認識している。従って以下は想定であるが、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 現在、日豪EPAによる高糖度粗糖の輸入が可能になっているが、同じようにタイ国からも高糖度粗糖が輸入できれば、砂糖業界では、精製糖工程の負荷軽減やコストダウンが期待できる。粗糖の調達においても柔軟な対応ができることになる。</li> <li>② TPPについては日本への影響だけを考えるのではなく、「加盟国全体へのマーケットの拡大」と捉える必要がある。当社のタイ国関連会社は粗糖と精製糖を生産販売しており、TPP域内各国との取引が増え収益に繋がることが考えられる。一方、当社においては、高糖度粗糖の輸入メリットの他、砂糖とフードサイエンスの両分野で進めている海外事業全体にもプラスになると考えており、総合的に当社グループの強みに繋げ、事業の拡大を図りたい。</li> </ul>